

中国語ⅡB用教科書『漢語課本ⅡB』の作成に関して

荒 木 雪 葉

(福岡大学共通教育研究センター外国語講師)

0. はじめに

本稿は、福岡大学での中国語中級者向けの講読教科書作成の経緯を述べ、改良すべき課題を明らかにするものである。福岡大学では、2017年度に外国語講師の宮下と荒木が中心となって、中国語ⅡBで用いる講読教科書を作成した。これは2018年度に『漢語課本ⅡB 中国語で読む福岡物語—福岡旅情故事— 試用版』として製本され、宮下と荒木の受け持っている中国語ⅡBのクラスで試用している。本稿ではまず福岡大学での中国語教育の現状と、中国語ⅡBのクラスに求められるものを把握したうえで、『漢語課本ⅡB 中国語で読む福岡物語—福岡旅情故事— 試用版』の改訂すべき点を明らかにする。

福岡大学における中国語教育の現状は次の通りである。共通教育における中国語科目は、初級者向けで会話中心の中国語ⅠA、初級者向けで文法と講読中心の中国語ⅠB、また中級者向けで会話中心の中国語ⅡA、中級者向けで文法と講読中心の中国語ⅡBが開設されている。多くの学生が一年次に中国語ⅠA・Bを、また二年次にⅡ中国語A・Bを履修している。

資料1に示したのは福岡大学における中国語の位置づけである。これによると、本稿で取り扱う中国語ⅡBを含む中国語ⅡA・Bは、人文学部のみが選択必修であり、ほかの学部では選択科目となっている。現在、中国語Ⅱのクラスについては、人文学部は各学科ごとに一クラスが設けられているが、ほかの学部の学生は全て一つのクラスにまとめられている。

資料1

福大における共通教育科目・中国語の位置づけ

	中国語Ⅰ		中国語Ⅱ	
人文学部	I AB	選択必修	II AB	選択必修
人文学部LA	I AB	必修	II AB	選択必修
法学部	I AB	選択	II AB	選択
経済学部	I AB	選択	II AB	選択
商学部	I AB	選択	II AB	選択
商学部二部	I	選択	II	選択
理学部	I AB	選択必修	II	選択
工学部	I AB	選択必修	II	選択
医学部医学科	I AB	選択必修	なし	
医学部看護学科	I	選択必修	なし	
薬学部	I AB	選択	II AB	選択
スポーツ科学部	I AB	選択	II AB	選択

※法学部、商学部、商学部二部は第二外国語を4単位以上履修すると定めているが、総合教養科目などで代替可。

※経済学部、薬学部、スポーツ科学部は第二外国語で取得すべき単位は設けておらず、完全な選択科目の扱い。

※この位置づけは他の第二外国語も同様。

次に各外国語科目のクラス数、受講者数の変遷を追う。

資料2

第二外国語各言語のⅠ・ⅠA・ⅠB登録者数（延べ人数、再履修も含む。2000～2015年度）（単位：人）

	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語
2000（平成12）年度	2727	2207	2932	1710	499
2011（平成23）年度	1322	860	2935	686	1496
2015（平成27）年度	1171	777	2848	584	833

※2002年度の登録者数増加は定員制限が外れたため。（甲斐、2006）

資料2によると、2000年から2015年の各第二外国語の「I」登録者数によると、ドイツ語・フランス語・スペイン語は増減を繰り返しながらではあるが次第に減少している。2000年度と2015年度とを比較すると、ドイツ語は半数以下、フランス語は三分の一、スペイン語も三分の一以下となっている。

中国語は2000年時点で既に履修学生が外国語科目の中で最多であったが、第二位であったドイツ語を200名上

回る程度であった。しかし2015年まではほぼ一定の人数を保っている。

大幅な人数増を見せているのが朝鮮語である。2000年度は履修者が最も少なかったが、2011年度にはフランス語、スペイン語を抜いた。2015年度には2000年度の二倍近くになっている。

また次の資料3は、2015年度以降の各外国語科目のI、IA、IBの登録者数の変遷である。

資料3

一年次生 第二外国語各言語のI・IA・IB登録者数(延べ人数、再履修は含まない。2015~2017年度)(単位:人)

	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語
2015(平成27)年度	1099	707	2588	509	747
2016(平成28)年度	935	557	2533	370	999
2017(平成29)年度	826	496	2372	407	1130

このデータによると、ドイツ語・フランス語・スペイン語はさらに減少が続く。

アジア言語について、中国語は従来的人数を保っている。朝鮮語は2016年度にドイツ語の人数を抜き、一年次生の第二外国語として、履修者数が最も多いのが中国語、

次が朝鮮語となった。中国語と朝鮮語を履修する学生数が多い理由としては、地理的に中国・韓国に近いこと、また韓国は歌手などの芸能人の進出が挙げられよう。

次に中国語I全体と中国語IIA・B全体の履修者数を見てみる。

資料4

中国語履修者数(延べ人数、再履修も含む。2014~2017年度)(単位:人)

	中国語I	中国語II	計	
2014(平成26)年度	2243	536	2779	※この年まで登録制限あり(各クラス先着50名)
2015(平成27)年度	2848	519	3367	
2016(平成28)年度	2725	621	3346	
2017(平成29)年度	2602	686	3288	

はじめに触れたように、中国語IIは人文学部以外では選択科目となるために履修者数は減少する。またこの資料では、中国語IIを「必修」で履修する学生数と「選択あるいは選択必修」で履修する学生数との割合が不明ではあるが、全体的に増加傾向であるといえる。

総じて、福岡大学において中国語を履修する学生は格段に多いといえることができる。ところで本稿で取り上げるのは中国語II Bで用いる講読教科書の作成に関する問題である。中国語IIを履修する人数は2017年時点で686名であり、人文学部・他学部の内訳は不明であるとはいえ、様々な専攻の学生が存在することは確かであり、興味関心も多岐にわたることが予想される。この点も踏まえて講読教科書作成の意義や今後の課題について考察する。

福岡大学における中国語教育については、以下のような先行研究が行われている。

まず中国語I・IIの教育の水準に関しては、《漢語教学大綱》の「初級」水準をもととする(甲斐、2006)。

教育の質の保証に関して、教学内容の均質化、成績評価の統一の取り組み、またルブリック作成案が示されている(王・甲斐・間、2016)。この論文に関して、教

学内容の均質化については、福岡大学では中国語の非常勤講師も多く、現時点でも完全に均質化しているとはいえない。しかし学生側が教員を選んで受講することができない以上、どのクラスに割り当てられても、授業終了時点で同じ水準の知識を身につけられるようにすることが望ましい。そのためには統一教科書や統一試験問題の作成だけでなく、ルブリックを作成して教学内容を具体的に示す必要がある。

次に教材作成に関して、教育水準の一定化のためのオリジナルテキスト・ウェブ教材の作成・試用・使用スケジュール案が示された(甲斐、2006)。オリジナルテキストは2012年度から試用が始められており、毎年改定を重ねて用いている。さらに『漢語課本2015』のピンイン表記についての考察がなされている(川澄、2016)。この論文は中国語II B講読教科書を作成するにあたり、そもそも中国語I用の教科書のピンイン表記、たとえば「第一」のピンインを「Dì-yī」とハイフンを入れて書くことなどを引き継ぐべきか、独自の基準を設けるかについて考察するのに参考とすべきである。

2017年度に福岡大学の外国語講師が試用した教科書『漢語課本II 試用版』に対する学生の評価への分析を行っ

た（趙、2017）。この結果、2018年度に用いている『漢語課本Ⅱ修訂版』は本文が全て1ページに収まるようになり、また文法の問題が増やされた。本稿で考察する中国語ⅡB用講読教科書は将来的にこの『漢語課本Ⅱ』とペアで用いることを想定されているため、教学内容や文章のレベルなどはこのテキストも参考にして教科書作成、改訂に臨む必要がある。

1. 学生が中国語教育に求める事項

筆者は2018年度開始時に、自分の担当する中国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの全てのクラスでアンケートを実施し、中国語を選択した理由を自由記述で、授業を通して行ってみたいことを選択方式で尋ねた。調査によると、中国語を選択した理由としては次のような意見が見られた。

- ・「将来役に立ちそう」「これからは中国の時代が来そ

さらに授業を通して行ってみたいことについては、次のような結果になった。

資料5

2018年度開始時に実施したアンケート

中国語Ⅰ（単位：人）

大学での授業を通しておこなってみたいことに○をつけてください。 (複数回答可)	中国語ⅠA 解答者数85	中国語ⅠB 解答者数71
・ 中国語圏を旅行してみたい	46	39
・ 中国語圏に留学してみたい	2	2
・ 中国の文化を中国語で読む・聞くことができるようになりたい	57	49
・ 自分の文化を中国語で書く・話すことができるようになりたい	49	41
・ 中国語検定やHSKなど中国語の資格を取りたい	4	2
・ 卒業後に中国語を使う仕事をするために勉強したい	7	2
・ その他	4	2

中国語Ⅱ（単位：人）

大学での授業を通しておこなってみたいことに○をつけてください。 (複数回答可)	中国語ⅡA 解答者数29	中国語ⅡB 解答者数38
・ 中国語圏を旅行してみたい	22	20
・ 中国語圏に留学してみたい	7	1
・ 中国の文化を中国語で読む・聞くことができるようになりたい	13	15
・ 自分の文化を中国語で書く・話すことができるようになりたい	11	11
・ 中国語検定やHSKなど中国語の資格を取りたい	18	9
・ 卒業後に中国語を使う仕事をするために勉強したい	7	3
・ その他	3	0

中国語Ⅰでは、会話中心のA、文法・読解中心のBともに「中国の文化を中国語で読む・聞くことができるようになりたい」が最も多く、次が「自分の文化を中国語で書く・話すことができるようになりたい」、三番目が「中国語圏を旅行してみたい」となった。

中国語ⅡA（会話中心。選択あるいは選択必修クラス）では、最も多い解答が「中国語圏を旅行してみたい」、次が「中国語検定やHSKなど中国語の資格を取りたい」、三番目が「中国の文化を中国語で読む・聞くことができるようになりたい」である。

うだと思った」……人口の多さ、経済発展など中国の国力に注目し、自分のスキルとして中国語を身につける。

- ・ 「中国の観光客が多いため」「最近日本で中国人をよく見かけるため」……来日中国人の多さを感じ、交流を持つなどするために中国語を身につける。
- ・ 「漢字を使っているので分かりやすいと思った」「漢文の知識が役立ちそう」……これまでに身につけた知識を通して理解しやすそうなので中国語を選択した。
- ・ 中国語Ⅱに関しては、上記の理由の他に「就職に有利だと思ったから」「検定を取りたいから」、また「東洋史を選択しているから」「考古学を学ぶにあたり中国語か韓国語の履修を勧められたから」というような、より自分に役立つ具体的な理由を挙げる学生もいた。

中国語ⅡB（文法・読解中心。必修クラス）では、「中国語圏を旅行してみたい」が最も多く、次が「中国の文化を中国語で読む・聞くことができるようになりたい」、三番目が「自分の文化を中国語で書く・話すことができるようになりたい」となった。

ここから、中国語Ⅰの授業では中国理解・自己表現を身につけることが求められ、中国語Ⅱではこれに加えて学んだ知識の実践や資格取得など、より実用的であることが求められていると言える。

2. 福岡大学での中国語教育における取り組みの現状

ここで福岡大学での中国語教育において現在行われている、中国語教育の質の保証、またこれに関して中国語 I A・B、II A・Bそれぞれにおけるテキスト使用状況について概説する。

まず教育の質の保証に関連して、福岡大学での現行の統一テキストの作成経緯は以下の通りである。

- ・ 中国語 I A・B用テキスト『漢語課本』……2006年から編纂を始め、2010年から二年間一部のクラスで試用。2012年に出版。以後改版を重ねて現在の『漢語課本2018』に至る。このテキストは一冊を会話中心の I Aと文法・講読中心の I Bの両クラスで用いることにより、I A・I Bそれぞれのクラスで文法項目や単語などを学ぶ進度を合わせることが出来る。学生にとっては購入するテキストが一冊で済むし、I Aで学んだことを I Bで、I Bで学んだことを I Aで再確認することができるというメリットがある。
- ・ 中国語 II A用テキスト『漢語課本 II』……2016年度に一部のクラスで『漢語課本 II 試用版』の試用を行った。2017年度には、専任の外国語講師のクラスで試用し、各講師の意見をふまえて改訂版が出版された。2018年度から専任の外国語講師のクラスで『漢語課本 II 改訂版』の使用を開始した。

次にテキスト使用状況、統一試験使用状況については次の通りである。

- ・ 中国語 I A・Bにおいては専任の外国語講師、非常勤講師を問わず全てのクラスで『漢語課本』を使用している。定期テストにおける統一試験は希望者のみ使用している。非常勤講師はオリジナルの試験問題を用いる場合も多いが、このうち数人は、試験のレベルを合わせるために統一試験の内容を確認している。
- ・ 中国語 II Aにおいては、福岡大学外国語講師の受け持つクラスでのみ『漢語課本 II』を使用している。非常勤講師のクラスでは各自テキストを選定してもらっている。統一試験は作成していない。
- ・ 中国語 II Bにおいては、2017年度には外国語講師のクラスでは『漢語課本 II』を使用。2018年度には宮下・荒木のクラスで『漢語課本 II B』(後述)を試用している。非常勤講師のクラスでは各自テキストを選定してもらっている。統一試験は作成していない。

このように、福岡大学の中国語教育では統一テキストや統一試験を作成し、教学内容の均質化、質の保証を試みている。2017年時点で、唯一存在しないのが中国語 II

Bで用いる講読の教科書であった。そこで II B用講読教科書の作成が急がれたのである。

3. 中国語 II B 講読用テキストの作成

3-1. 講読テキスト作成のコンセプト

趙秀敏(2002)は、コミュニケーション重視の言語教育の特徴を以下のように要約する。

1. 言語の構造(文法と語彙)だけでなく、言語が果たすコミュニケーション機能(提案する、拒否する、説明するなど言語の使用意図)と実際の場面をも重視する。
2. 社会的に適切な言語使用を目指す。
3. 自己表現、情報交換、意味交渉、問題解決などのコミュニケーション活動を行う。
4. 学習者中心である。
5. 教材の自然さを重視する。

コミュニケーションという会話を連想するが、コミュニケーションを行うためには知識と、それを表現する語彙力も必要である。

ここで外国語習得の意義について考えてみる。外国語を学ぶ目的はコミュニケーションを行うこと、その言語を用いている文化について理解を深めることが挙げられよう。つまり、自己表現と他者理解である。このいずれにおいても、自文化理解が前提となることは言うまでもない。外国語学習の初級段階では、初めて触れる言語という、文法や語彙も含めた異文化を理解することで精一杯であり、最低限の表現力を身につけることに終始するかもしれない。しかし本稿で扱う中国語 II のような中級段階となると、より高度な表現力、また専門教育への橋渡しとしての学習が必要となってくる。特に講読の教科書に求められるのは、美しい文章語の表現を学ぶことであろう。

3-2. テキスト『漢語課本 II B 中国語で読む福岡物語 —福岡旅情故事— 試用版』製作について

これまでに述べてきたことを踏まえて、中国語 II Bの講読教科書の製作について紹介する。

まず、取り上げる文法項目は中国語 II Aで使用している『漢語課本 II 修訂版』に沿うものとした。

次に本文の内容であるが、講読の教科書であるため、文章語での表現に終始した。中国事情を講読する教科書は多いが、敢えて身近な話題を中国語で表現したものを選択した。中国事情はサブテキスト、配布資料などで読むと良いと考えた。この件に関して、「中国語中級・上級学習者向け副読本案」(荒木、2017)は中国語 II Bの授業を想定して作成した。内容は中国人作家の紀行文や短編小説などである。

作成するテキストの内容は福岡県内の歴史や事柄を大きなテーマとすることにした。このため題名は『漢語課本 II B 中国語で読む福岡物語 —福岡旅情故事— 試

用版』とした。内容を詳述すると、福岡県のご飯、武術、茶と禅宗、地名、世界遺産など多岐に渡っている。また福岡県外の学生も多数履修するため、プリントして配布している練習問題では、本文を参考にして自分の好きな

土地やふるさとについて表現する場を設けた。例えば福岡のことを概説する第一課の練習問題には、資料6のような練習問題を附している。

資料6

配布した第一課練習問題（部分）

一、あなたの故郷や好きな場所を（ ）に入れて、次の質問に中国語で答えてみましょう。

(1) 如果去（ ）旅游的话，做什么最好玩儿呢？

(2) 福岡是美食之都。那么，（ ）呢？

(3) 在（ ）可以吃到什么？

(4) 请你简单地介绍一下（ ）的自然环境。〔简单地 jiǎndānde：簡単に〕

テキスト作成時に、内容が福岡県のものばかりであるので、他県出身の学生への配慮が足りないのではないかという意見は出た。しかしこのテキストは福岡大学で用いることを念頭に作られるべきのものであり、そうすることで他県の学生にも福岡大学の位置する福岡県、福岡市のことを学んでもらうことができる。福岡出身の学生には地元のことを中国語で表現する方法を知ることができ、他県の学生には上記のような設問に取り組むことで、自分のことを中国語で表現する方法を身につけてもらうことができると考え、敢えて福岡県のことに関する内容にとどめた。

4. おわりに

4-1. 中国語ⅡBとしての課題

まず、中国語ⅡBという科目としての課題は、教学内容の均質化であろう。前述したように中国語ⅠA・Bについては統一テキストが用いられ、また統一試験問題も作られている。また現在ループリックも製作中である。一方中国語ⅡAは統一テキストの使用が始まり、いずれ全クラスで統一テキストとして用いる準備が始まっている。ただし統一試験問題は作られておらず、ループリックも製作されていない。中国語ⅡBは今回テキスト試用を始めたところであり、今後はテキスト改訂、統一試験問題の作成と進めるべきであるが、まずはループリックの製作を行って教学内容の確認をすべきである。

4-2. 学生の要求との合致

テキスト『漢語課本ⅡB 中国語で読む福岡物語 — 福岡旅情故事 — 試用版』はⅡBのクラスを想定したも

のである。主に必修クラスで用いるため、資料5において三番目に回答が多かった「自分の文化を中国語で書く・話すことができるようになりたい」という目的のためには、福岡の歴史や文化を中国語で記したテキストは有用であろう。ただし選択・選択必修クラスでの要求も考慮し、資格取得のための単語の採用や、文法項目のさらなる整理は必要である。

4-3. テキスト『漢語課本ⅡB 中国語で読む福岡物語 — 福岡旅情故事 — 試用版』の課題

2018年度より試用を開始した時点で、既に多くの改訂点が明らかになっている。

福岡県の事柄を中心した事情は前述したとおりであるが、中国事情を全く入れないのは、学生の要求にも応えられないことにつながる。改訂にあたっては、コラムで少しでも中国事情を紹介したり、日本事情との比較の形で中国文化を本文にも導入したりすべきであろう。

なお、中国事情導入に関しては、荒木担当部分には現在のところ以下のような配慮を行った。

- ・ 第1課（福岡概況）：元寇防塁や謝国明を紹介、大まかに中国大陸との交流があったことを述べる。
- ・ 第2課（福岡と博多）：博多が宋との交易で栄えたことを出土品から紹介。
- ・ 第6課（櫛田神社と山笠）：教員が中国での廟や祭礼を紹介し、違いを議論することができる。
- ・ 第7課（麺文化）：うどん・ラーメンは中国や台湾でも受け入れられていることを紹介できる。
- ・ 第10課（大宰府と鴻臚館）、第11課（宗像大社と志賀海神社）：古代からの日本と中国・韓国交流の歴

史を紹介できる。

- ・ 第14課 (福岡藩の学問) : 漢学を受容した学者たちを紹介。

次の問題として、内容が全体的に長く、難解となってしまった点が挙げられる。このことは福岡大学の中国語ⅡB担当の非常勤講師からも指摘されている。この点については、本文を短くし、内容も簡易化する案がすでに出されている。これによって、資格取得のための学習もし易くなると考えられる。

内容に関して、人文学部の学生の履修が主とはいえ、他の学部の学生の履修も念頭におくべきである。現在の内容は歴史や文化が主であるため、人文学部以外の法・経済・商・理・工・医・薬・スポーツの各学部に関する文章への書き換えが必要となる。

以上の各点をふまえ、現在『漢語課本ⅡB 中国語で読む福岡物語 一福岡旅情故事一 試用版』の改訂を手掛けている。今年度終了時には再度テキストの方向性や意義を検討し、さらなる改訂に役立てたい。

謝辞

本研究は、福岡大学研究推進部の研究経費によるものである。

(課題番号 : 153001)

引用・参考文献

- ・ 趙秀敏「日本の大学中国語教育の問題点と課題—コミュニケーション重視の観点から—」(日本中国語学会中国語ソフトアカデミズム検討委員会／編『日本の中国語教育—その現状と課題・2002—』日本中国語学会、2002年、156ページ)
- ・ 甲斐勝二「映像および画像を使った中国語教材「体会漢語」の製作をめぐって 福岡大学にてe-learningを考えるために」(『福岡大学人文論叢』第35巻第3号、福岡大学研究推進部、2003年)
- ・ 甲斐勝二、磯田翌形、韋海英「資料 福岡大学 共通教育語学中国語教育サポート教材『体会汉语』テキスト資料」(『福岡大学人文論叢』第35巻第3号、福岡大学研究推進部、2003年)
- ・ 興水優『中国語の教え方・学び方—中国語科教育法概説—』(日本大学文理学部、2005年)
- ・ 甲斐勝二「福岡大学における中国語教育の現状と今後の教育構想について」(『福岡大学人文論叢』第38巻第1号、福岡大学研究推進部、2006年)
- ・ 中国語教育学会学力基準プロジェクト委員会「中国語初級段階学習指導ガイドライン」(2007年)
- ・ 間ふさ子、甲斐勝二、張璐、王毓雯「字幕製作を使った語学学習(中国語)の構想と実践」(『福岡大学人文論叢』第43巻第4号、福岡大学研究推進部、2012年)
- ・ 川澄哲也「『漢語課本2015』のピンイン表記について—福岡大学中国語教科書で用いるピンイン表記法の策定に向けた一作業—」(『福岡大学研究部論集A:人文科学編』Vol.15 No.2、福岡大学研究推進部、2016年)
- ・ 王毓雯「初級中国語教育で必要とされる語彙とその特徴—福岡大学の統一教材『漢語課本』を素材に—」(『福岡大学研究部論集A:人文科学編』Vol.15 No.2、福岡大学研究推進部、2016年)
- ・ 趙葵欣「初級中国語の文法項目について—福大の『漢語課本』を例として—」(『福岡大学研究部論集A:人文科学編』Vol.15 No.2、福岡大学研究推進部、2016年)
- ・ 王毓雯、甲斐勝二、間ふさ子「福岡大学の中国語教育をめぐる諸問題—共通教育中国語の質の保証について」(『福岡大学人文論叢』第48巻第1号、福岡大学研究推進部、2016年)
- ・ 甲斐勝二、間ふさ子、趙葵欣、荒木雪葉、宮下尚子、董玉婷「福岡大学の中国語教育と教育法の点検」(「教科教育法における情報機器活用指導の課題と見直し—各教科からの提案を通して—」『福岡大学 教職課程教育センター紀要』第2号、福岡大学教職課程教育センター、2017年)
- ・ 趙葵欣「二年级教材『漢語課本Ⅱ 試用版』的評價分析—以学习者反馈为依据」(『福岡大学研究部論集A:人文科学編』Vol.17 No.2、福岡大学研究推進部、2017年)
- ・ 荒木雪葉「中国語中級・上級学習者向け副読本案」(『福岡大学研究部論集A:人文科学編』Vol.17 No.2、福岡大学研究推進部、2017年)